

学びの多様化への対応

(1) 定時制課程・通信制課程

定時制課程

- ・働きながら高校で学ぶ勤労青少年の学びの場という位置づけから、現在は、不登校経験者や全日制課程からの転入者、中途退学者など多様な生徒が学ぶ場として重要な役割を担っている。
- ・夜間部のみだけでなく、昼間部のみの課程や昼夜間併置の課程もあるほか、修業年限もかつては4年以上となっていたが、規定の単位を修得すれば3年間で卒業できる「三修制」を採用している高校や「単位制」を取り入れている高校等様々なタイプの特色のある高校が設置されている。

1 地区別配置状況（13校）

地区	夜間部のみ	昼間部のみ	多部制
南部	大河原商業	白石七ヶ宿校	—
中部	第二工業, 名取, (市) 仙台工業	—	貞山 [㊦] , (市) 仙台大志 [㊦]
大崎	古川工業	—	田尻さくら [㊦]
栗原	—	—	—
登米	佐沼	—	—
石巻	—	石巻北飯野川校	東松島 [㊦]
本吉	気仙沼	—	—

※[㊦]は単位制を採用している高校

- ・栗原地区を除き全ての地区に定時制課程が配置されている。
- ・多部制定時制高校は、中部地区に2校（うち1校は仙台市立）、大崎地区、石巻地区にそれぞれ1校設置されている。
- ・専門学科の定時制課程は工業科のみであり、中部地区に2校（うち1校は仙台市立）、大崎地区に1校設置されている。

2 定時制課程の充足率

学校名	学 科・コース	定員	学級数	合格者（人）			充足率（%）				
				H27	H28	H29	H27	H28	H29		
白石七ヶ宿	普通科・昼	40	1	19	23	22	47.5	57.5	55.0		
大河原商業	普通科・夜	40	1	14	9	12	35.0	22.5	30.0		
南 部 地 区				80	2	33	32	34	41.3	40.0	42.5
第二工業	電子機械科・夜	40	1	11	8	14	27.5	20.0	35.0		
	電気科・夜	40	1	5	3	8	12.5	7.5	20.0		
名取	普通科・夜	40	1	21	8	15	52.5	20.0	37.5		
貞山※	普通科・昼	120	3	111	92	71	92.5	76.7	59.2		
	普通科・夜	40	1	12	14	10	30.0	35.0	25.0		
(市)仙台大志※	普通科・I部(午前午後)	90	1	90	90	80	100.0	100.0	88.9		
	普通科・II部(午後夜間)	30	1	25	19	18	83.3	63.3	60.0		
(市)仙台工	建築土木科・夜	40	1	15	12	12	37.5	30.0	30.0		
	機械科・夜	40	1	15	11	10	37.5	27.5	25.0		
中 部 地 区				480	11	305	257	238	63.5	53.5	49.6
古川工業	機械科・夜	40	1	10	8	10	25.0	20.0	25.0		
	電気科・夜	40	1	5	3	5	12.5	7.5	12.5		
田尻さくら※	普通科・I部(午前)	80	2	50	41	44	62.5	51.3	55.0		
	普通科・II部(午後夕間)	40	1	10	9	12	25.0	22.5	30.0		
大 崎 地 区				200	5	75	61	71	37.5	30.5	35.5
佐沼	普通科・夜	40	1	15	9	16	37.5	22.5	40.0		
登 米 地 区				40	1	15	9	16	37.5	22.5	40.0
東松島※	普通科・I部(午前)	40	1	33	37	31	82.5	92.5	77.5		
	普通科・II部(午後)	40	1	40	37	26	100.0	92.5	65.0		
	普通科・III部(夜間)	40	1	27	6	9	67.5	15.0	22.5		
石巻北飯野川	普通科・昼	40	1	24	23	27	60.0	57.5	67.5		
石 巻 地 区				160	4	124	103	93	77.5	64.4	58.1
気仙沼	普通科・夜	40	1	6	9	5	15.0	22.5	12.5		
本 吉 地 区				40	1	6	9	5	15.0	22.5	12.5
合 計				1,000	24	558	471	457	55.8	47.1	45.7

※貞山高校、仙台大志高校、田尻さくら高校、東松島高校は多部制

県教育庁教育企画室調べ

- ・昼間部に比べ夜間部の充足率が極端に低い。
- ・地区別では、石巻地区で充足率が高く、次いで中部地区となっている。本吉地区及び大崎地区では充足率は低い傾向にある。

3 入学者の出身地域 (H29 入学生地区別進学状況)

(単位:人)

地区	学校名		南部	中部	大崎	栗原	登米	石巻	本吉
南部	白石七ヶ宿	昼間	22						
	大河原商業	夜間	11						
中部	名取	夜間		15					
	第二工業	夜間		18					
	貞山	昼間		66				1	
		夜間	1	8				1	
	(市)仙台工業	夜間		21					
	(市)仙台大志	I部		77					
II部			16						
大崎	古川工業	夜間			9	1	1		
	田尻さくら	I部		1	19	11	9		
II部					7	1	4		
登米	佐沼	夜間				4	10		
石巻	東松島	I部		3			1	25	
		II部		2				21	
		III部						9	
	石巻北飯野川	昼間						26	1
本吉	気仙沼	夜間						4	
計			34	227	35	17	25	83	2
定時制課程進学率			2.1%	1.6%	1.8%	3.0%	3.4%	4.5%	1.0%

※定時制課程進学率(%) = 定時制高校進学者数 ÷ 中学校卒業生数

「H29 中学校等卒業生の進路状況調べ」より作成

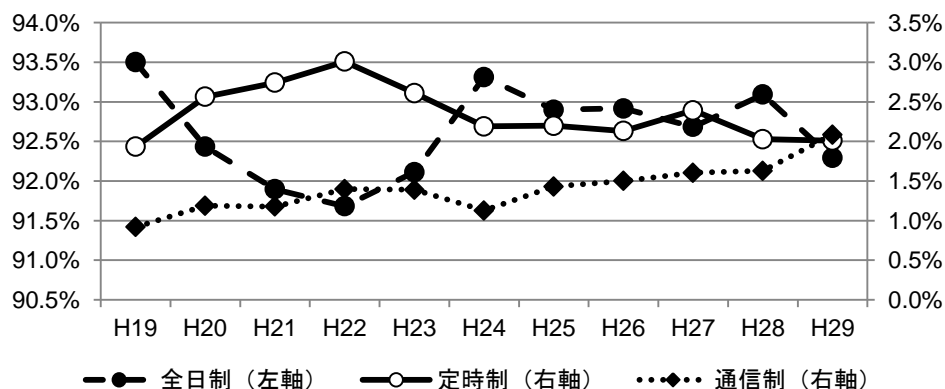
- ・地元の高校に進学する傾向が強いが、定時制課程のない栗原地区では田尻さくら高校や佐沼高校に進学している。
- ・近年の傾向をみると、登米市において多部制の田尻さくら高校への進学が増加している。
- ・地区別の進学率をみると、県全体(2.0%)と比較し、石巻地区において特に高くなっている。

4 中学校卒業生の課程別進学者数・率の推移

(単位:人)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
卒業生数	23,416	22,969	22,000	22,732	21,943	21,834	21,605	21,852	21,570	21,544	21,395
全日制高校進学者	21,894	21,231	20,217	20,841	20,212	20,374	20,071	20,304	19,992	20,056	19,746
定時制高校進学者	453	589	603	684	573	478	475	466	516	437	430
通信制高校進学者	215	273	259	318	305	246	309	328	346	351	446

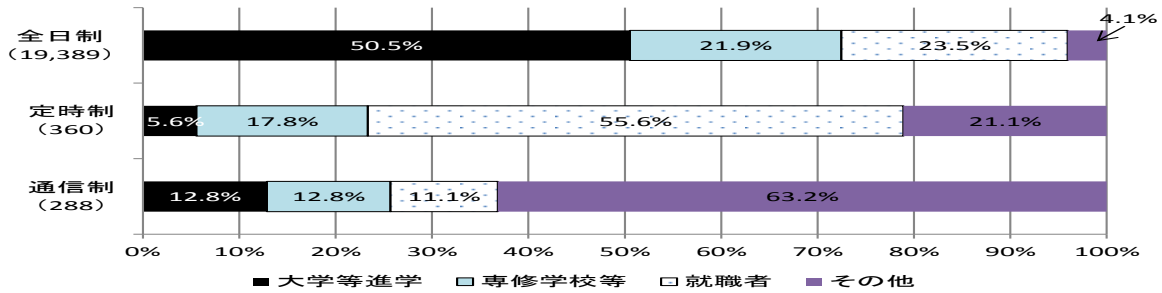
中学校卒業生の進学率(課程別)の推移



「学校基本調査」より作成

- ・定時制課程進学率は2~3%で推移している。

5 本県高校生の卒業後の進路状況（H28.3 卒業生）



「H28 学校基本調査」より作成

- ・ 定時制課程卒業生の半数以上が就職している。

6 県立高校に関する調査（学校調査）結果

定時制高校の役割について重視するべきと思うもの

	中保		高保		中教		高教		合計	
①勤労青少年の学びの場	338	22.7%	250	22.3%	54	13.6%	58	14.3%	700	20.5%
②不登校生徒の学び直し	187	12.5%	144	12.8%	45	11.3%	78	19.2%	454	13.3%
③高校中途退学者の学び直し	201	13.5%	144	12.8%	35	8.8%	55	13.5%	435	12.7%
④基礎学力の定着	213	14.3%	177	15.8%	69	17.4%	62	15.2%	521	15.2%
⑤対人能力の向上	92	6.2%	66	5.9%	52	13.1%	48	11.8%	258	7.5%
⑥将来仕事をする上で必要な力の習得	310	20.8%	225	20.0%	92	23.2%	52	12.8%	679	19.9%
⑦生活習慣の定着	42	2.8%	36	3.2%	22	5.5%	23	5.7%	123	3.6%
⑧個性を生かした能力開発	100	6.7%	81	7.2%	26	6.5%	25	6.1%	232	6.8%
⑨その他	9	0.6%	0	0.0%	2	0.5%	6	1.5%	17	0.5%
計	1,492	100.0%	1,123	100.0%	397	100.0%	407	100.0%	3,419	100.0%

- ・ 全体では、「①勤労青少年の学びの場」の回答が最も多く、続いて「⑥将来仕事をする上で必要な力の習得」、「④基礎学力の定着」となった。
- ・ 中学校教員では「⑥将来仕事をする上で必要な力の習得」が、高校教員では「②不登校生徒の学び直し」の回答が一番多い。

どのような課程で学んでみたいか

	中学生		高校生		中保		合計	
①全日制	1,424	82.1%	967	67.3%	823	99.4%	3,214	80.4%
②定時制	90	5.2%	89	6.2%	3	0.4%	182	4.6%
③通信制	24	1.4%	95	6.6%	2	0.2%	121	3.0%
④わからない	197	11.4%	286	19.9%	-	-	483	12.1%
計	1,735	100.0%	1,437	100.0%	828	100.0%	4,000	100.0%

- ・ 中学生のうち 90 人（5.2%）が定時制で学んでみたいと回答している。

※高校生の現在の課程と選び直せるとしたら学びたい課程

	現在の課程					
	全日制		定時制		通信制	
①全日制	920	71.0%	43	32.8%	4	36.4%
②定時制	49	3.8%	38	29.0%	2	18.2%
③通信制	84	6.5%	8	6.1%	3	27.3%
④わからない	242	18.7%	42	32.1%	2	18.2%
計	1,295	100.0%	131	100.0%	11	100.0%

- ・ 定時制課程に在籍する生徒のうち、38 名（29.0%）が同じく定時制で学びたいと回答している一方、全日制と答えている生徒が 43 名（32.8%）いる。

7 他県等の定時制高校の再編事例

都道府県	学校名	再編前の課程				再編後の課程			併設課程(再編後)		備考
		全日制	昼間	夜間	多部制	昼間	夜間	多部制	全日	通信	
北海道	市立札幌大通高校	○		○			○				
青森県	尾上総合高校	○	○	○			○		○		
岩手県	杜陵高校奥州校			○			○		○		
秋田県	角館高校			○			○	○		全日と別校舎	
	大館鳳鳴高校			○			○	○		全日と別校舎	
山形県	酒田西高校			○			○	○		全日と別校舎	
茨城県	日立第一高校			○			○	○			
	結城第二高校	○					○				
	茎崎高校	○					○				
栃木県	学悠館高校			○			○		○		
群馬県	太田フレックス高校	○					○				
埼玉県	狭山緑陽高校			○			○				
	吹上秋桜高校	○		○			○				
	吉川美南高校			○			○	○			
千葉県	生浜高校	○					○	○			
	松戸南高校	○					○				
神奈川県	神奈川総合産業高校	○		○			○	○			
	秦野総合高校	○		○			○	○			
三重県	飯野高校			○			○	○			
	みえ夢学園高校			○			○				
	伊勢まなび高校			○			○				
	北星高校			○			○		○		
滋賀県	能登川高校	○					○				
	瀬田工業高校			○			○	○		工業高校に普通科設置	
佐賀県	鳥栖工業高校			○			○	○		工業高校に普通科設置	
大分県	爽風館高校			○			○	○			

県教育庁教育企画室調べ

- ・全国的には、夜間定時制の再編を行う場合には、多部制の定時制高校を設置している傾向にある。
- ・東京都では、夜間定時制を募集停止することに伴い、3部制の定時制であるチャレンジスクールの定員を拡充することでその代替策としている。

8 課題と改革の視点

宮城県における課題

- ・不登校経験者や全日制課程からの転入学者や中途退学者など様々な入学動機や学習歴を持つ生徒が増加していることから、多様な教育ニーズに対応する必要がある。
- ・地区別の多部制定時制高校の配置状況をみると、南部、栗原、登米、本吉には多部制高校がなく偏りが見られる。
- ・県内中学校卒業者の約2～3%が定時制課程に進学しているが、平成29年度の定時制課程の充足率は県全体で50%に満たない状況であり、特に夜間部での充足率が低くなっている。

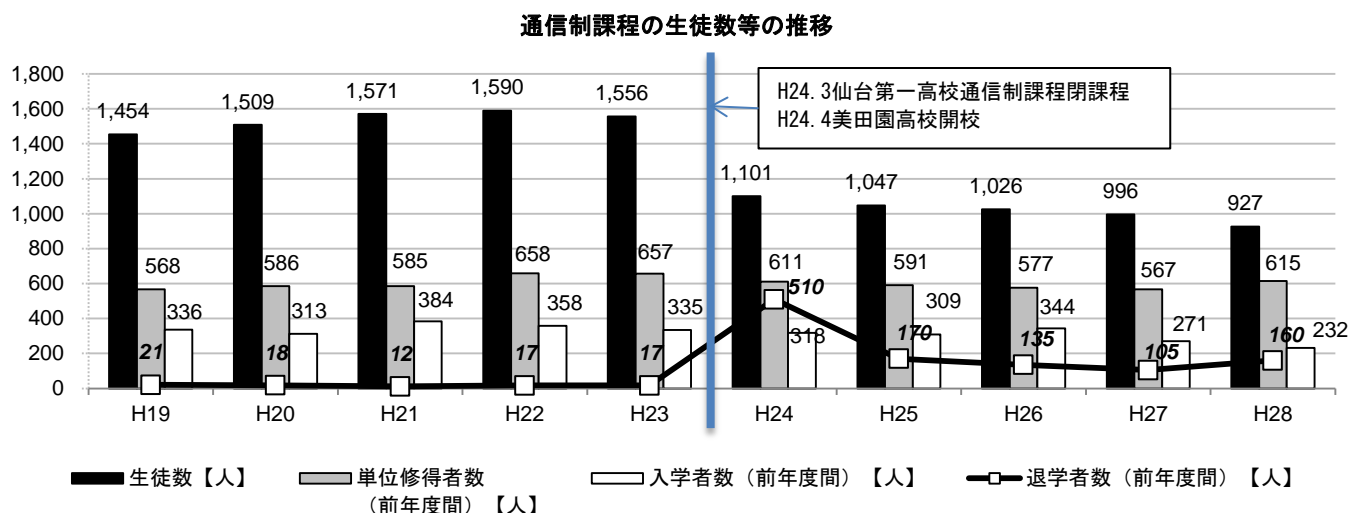
改革の方向性

- ・多様な学びのニーズに応える学校づくり
- ・基礎からの学びの充実
- ・多様な学びに対応するための体制の整備
- ・相談体制の充実
- ・全県的なバランスを考慮した学校の配置
- ・地域の生涯学習の場としての活用

通信制課程

- 通信制課程は、多様な学習環境の確保の観点から、年齢や職業、学力等に関わらず、無理のない形で学習できる弾力性のあるシステムとなっており、県内では美田園高等学校（名取市立地）が公立の唯一の通信制高校である。
- 通信制課程は、「自学自習」を学習の基本スタイルとして、レポート（添削指導）、スクーリング（面接指導）、テスト（試験）などを通して単位を修得する。
- 規定の単位数を修得すれば3年で卒業することも可能であり、また、自分のペースに合わせて4年以上かけて卒業してもかまわない。

1 県内公立通信制課程の生徒数等の推移



※前年度単位修得者

前年度間に当該高等学校の通信教育で1科目以上の単位を修得した者（現在在学するしないは問わない）他からの併修者でも単位を修得した者は含める。また学校で計画した当該科目所定の単位の一部については修得したが、当該科目所定の全部について修得しなかった者は除く。

2 美田園高校在籍生徒について（H29.5.1現在）

①生徒数

区分	生徒数 (人)
H29年度生	217
H28年度生	230
H27年度生	192
H28年度以前生	306
小計	945
聴講生	14
連携生	20
合計	979

②年齢別生徒数

年齢 (歳)	生徒数 (人)	割合 (%)
15	102	10.4
16	152	15.5
17	180	18.4
18	160	16.3
19	120	12.3
20~29	214	21.9
30~39	26	2.7
40~	25	2.6
合計	979	100.0
平均年齢		19.6歳

③地区別在籍者数

地区	人数 (人)	割合 (%)
仙南地区	134	13.7
中部地区	668	68.2
仙台市	415	42.4
大崎地区	70	7.2
栗原地区	12	1.2
登米地区	21	2.1
石巻地区	68	6.9
本吉地区	6	0.6
合計	979	100.0

「H29年度美田園高等学校学校要覧」より作成

- 10代の生徒が7割以上を占めているが、80代まで、幅広い年齢層の生徒が在籍している状況。
- 仙台市が生徒の4割以上を占めており、地区別では中部地区の次に仙南地区が多い。

3 美田園高校教育課程の取組等について

項目	取組の内容
スクーリング	・通常スクーリングの他、個別スクーリングや地域スクーリング（美里町）の実施
eラーニング	・インターネットを利用した個別学習支援の推進 ・生徒活用促進のためのコンテンツ内容の工夫 ・スクーリング時数代替の検討と試行
学び直し対策	・大学生や学習支援員などの学習サポーターによる個別学習支援の充実
学校間連携	・定通併修科目の単位認定（石巻北飯野川校（昼間定時制高校））
他機関との連携	・特別支援教育委員会を中心とする発達障害等の生徒対象のチーム支援

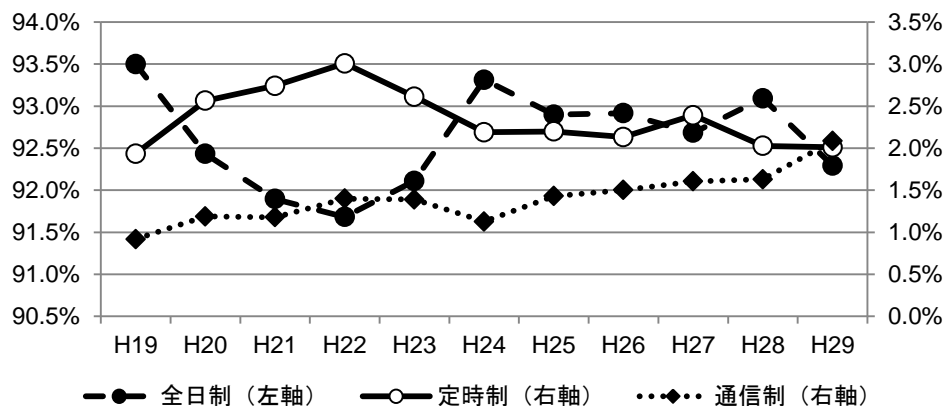
「H29 年度美田園高等学校学校要覧」, 「H29 公立高校ガイド」より作成

4 中学校卒業者の高校進学者数・率の推移

(単位:人)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
卒業生数	23,416	22,969	22,000	22,732	21,943	21,834	21,605	21,852	21,570	21,544	21,395
全日制高校進学者	21,894	21,231	20,217	20,841	20,212	20,374	20,071	20,304	19,992	20,056	19,746
定時制高校進学者	453	589	603	684	573	478	475	466	516	437	430
通信制高校進学者	215	273	259	318	305	246	309	328	346	351	446

中学校卒業者の進学率（課程別）の推移



「学校基本調査」より作成

- ・通信制課程進学率は、ゆるやかな上昇傾向にあったが、平成 29 年度は私立飛鳥未来きずな高等学校登米本校が 4 月に開校したことにより、大幅に増加している。

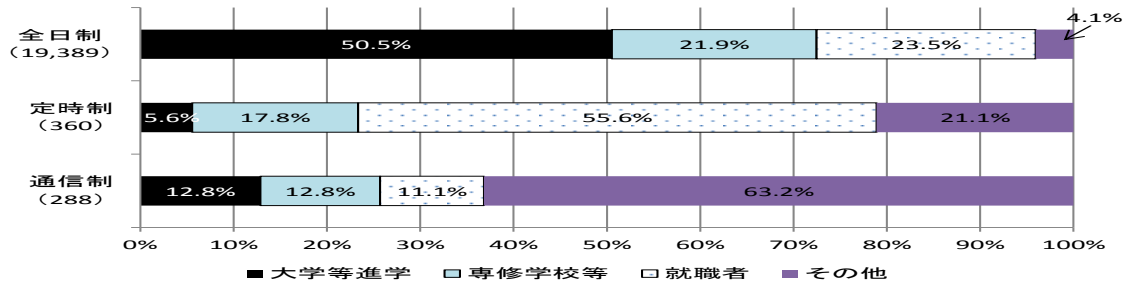
5 中学校卒業者の通信制高校進学先

H28.3 卒業生		うち県内		うち県外	
地区	人数(人)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
南部地区	30	11	36.7	19	63.3
中部地区	251	67	26.7	184	73.3
大崎地区	18	6	33.3	12	66.7
栗原地区	8	1	12.5	7	87.5
登米地区	12	5	41.7	7	58.3
石巻地区	23	7	30.4	16	69.6
気仙沼・本吉地区	9	2	22.2	7	77.8
計	351	99	28.2	252	71.8

「H28 中学校等卒業者の進路状況調べ」より作成

- ・県外通信制高校進学者の方が、県内通信制進学者よりも多くなっている。

6 本県高校生の卒業後の進路状況（H28.3 卒業生）



「H28 学校基本調査」より作成

- 通信制課程卒業生の 25.6%が進学の方、63.2%が、その他（進学・就職以外）となっている。

7 県立高校に関する調査（学校調査）結果

通信制高校について重視するべきと思うもの

	中保		高保		中教		高教		合計	
①生徒の学習意欲を持続させるための体験学習等の充実	364	26.0%	259	23.8%	98	26.6%	85	21.1%	806	24.8%
②就職につなげるためのキャリア教育の充実	402	28.8%	338	31.1%	103	27.9%	97	24.1%	940	28.9%
③スクーリング拠点の増設	193	13.8%	139	12.8%	76	20.6%	99	24.6%	507	15.6%
④定時制課程との連携による単位取得	174	12.4%	119	10.9%	47	12.7%	47	11.7%	387	11.9%
⑤社会人の生涯学習の場としての活用の展開	246	17.6%	226	20.8%	41	11.1%	62	15.4%	575	17.7%
⑥その他	19	1.4%	6	0.6%	4	1.1%	12	3.0%	41	1.3%
計	1,398	100.0%	1,087	100.0%	369	100.0%	402	100.0%	3,256	100.0%

- 全体では、「②就職につなげるためのキャリア教育の充実」の回答が最も多く、続いて「①生徒の学習意欲を持続させるための体験学習等の充実」となった。
- 高校教員では、「③スクーリング拠点の増設」の回答が最も多くなっている。

8 他県等の通信制高校に関する主な取組・検討事例

都道府県名	取組・検討内容
北海道	・各地区に協力校を複数指定（全体で 32 校）
群馬県	・年度途中の編入学の受け入れと方法の検討
千葉県	・スクーリングのネット配信の視聴 ・協力校（通信制高校から遠距離の高校を指定）の拡充
静岡県	・企業や関係機関と連携した就労支援（進路先未定生徒の課題） ・週休日実施のスクーリングを活用した、他校からの通級が可能なシステム整備

県教育庁教育企画室調べ

- スクーリング拠点の拡充策として協力校の指定を行っている。

9 課題と改革の視点

宮城県における課題

- 通信制の学びである「自学自習」と「自己管理」が困難な生徒が多く入学している状況から、学習中断が一定程度生じている。
- 美田園高校が県南部に位置することから、遠隔地に居住する生徒にとって、通信制教育による教育サービスが受けにくくなっている。

改革の方向性

- スクーリング拠点の増設や協力校の設置等による学習環境の整備
- 定時制高校等との連携の推進
- 教育内容、生活指導、就労支援等の充実